

日本福祉大学 理事長 丸山 悟



第 73 回 福祉大学祭の開催、誠におめでとうございます。

「Timeless Echo -あの日の声が今も私たちを導く-」というテーマを掲げた今年の大学祭。これは、ただの“こだま”ではありません。過去の声が、今の私たちの背中をそっと押してくれる、そんな“エコー”です。長く続いたコロナ禍は、学生生活に多くの制限をもたらしました。行事は“中止”となり、友人との時間は“距離”を保ち、昨年は天気まで空気を読まずに大学祭を縮小させる始末。まるで「我慢の三重奏」のような日々でした。でも、今年は違います。今年こそは、我慢の蓄積を“爆発”させる時。大学祭という名の“解放区”で、自分らしさを取り戻すチャンスです。「あの日の声」に導かれながら、今ここで、私たち自身の“物語”を奏でましょう。大学祭は、学生文化の花形であり、ひとつの“波形”でもあります。皆で一つの波に乗って、笑顔の“ビッグウェーブ”を巻き起こしましょう。その波の音こそが、未来の“Timeless Echo”になるのです。

そして当日は、「日本福祉大学同窓会設立 70 周年記念事業」により、大同窓会前夜祭のキャンプファイヤー、スペシャルトークショーが開催されます。久しぶりにキャンパスに戻られる同窓生の皆さまにも、学生たちの熱気と希望がきっと“あの日の声”を呼び覚ますことでしょう。

さあ、準備はいいですか？「誰かが選んだステージじゃなくて 僕たちが作っていくストーリー」を、今年もたっぷりと見せてください。

過去と現在が響き合うこの大学祭が、未来への新たな“こだま”となることを願っています。

日本福祉大学 学長 原田 正樹



第 73 回大学祭のテーマは「Timeless Echo -あの日の声が 今も私たちを導く-」と伺いました。大学生活の中で交わした友との語らい、学びの中で芽生えた志、そして地域の方々との温かな交流——それらの声や想いは、時を経ても私たちの心に響き続け、未来を歩む力となります。まさに、過去と現在、未来を結びつける素晴らしいテーマだと思います。

大学祭は、一人ひとりのエネルギーを存分に発揮し、仲間とともに語り合い、かけがえのない思い出をつくる大切な機会です。どうか多くの学生が参加し、自らの可能性を信じ、学生生活を謳歌してほしいと願っています。

また、大学祭とあわせて、学園創立 70 周年×大学同窓会 70 周年コラボ企画も開催されます。卒業生の皆様が、仲間と再会し、学生時代の思い出を語り合いながら、改めて日本福祉大学の歩みとつながりを感じていただける特別な一日となることでしょう。さらに、大学祭は地域の皆様とともに楽しみ、交流を深める場でもあります。日頃より温かいご支援をいただいている地域の皆様に心から感謝申し上げますとともに、本学が地域と共に歩み続ける存在でありたいと改めて思います。

最後に、この日のために企画・準備を重ねてきた実行委員会をはじめ、多くの学生や関係者の皆さんの努力に深く感謝いたします。大学祭と同窓会が、多くの方々の心に残る一日となることを願って、挨拶いたします。



日本福祉大学同窓会 会長 奈良 修三

第 73 回福祉大学祭の開催、心よりお祝い申し上げます。

テーマ「Timeless Echoーあの日の声が今も私たちを導くー」はここ数年、コロナ禍や天候不順で、学生の若きバドス（情熱）と伸びゆく力を大学祭で存分発揮できなかった思いを今年こそは必ずと謳いあげていく想いとして感動しています。

在学生のみなさんはこれから無限の可能性の空間に船出しようとしています。

みなさんの無限の可能性は「若さ」によって裏打ちされています。みなさんだけの特権です。この大学祭を仲間と共に創りあげる喜び、独創性を活かす取り組みの場として活用し、思い出作り、明日の未来を見つけるために大いに力を尽くしましょう。大学祭は教職員や支援していただける地域の人達とも協働、協力していく中でこそ成功に導かれると思います。

同窓会は今年で 70 周年を迎えました。関連する大学祭企画として 11 月 1 日には「社会福祉学部ホームカミングデー」が美浜キャンパスで開催され、福祉の歴史を在校生と卒業生が共に学びます。夕方からは「キャンプファイヤー」を第 1 グランドで行い、在学生も同窓生も共に赤々と燃える火を見ながら、肩を組み、歌を歌いながら交流を深めたいと思っています。

同窓会は通学在学生の生活支援として 2024 年度、2025 年度に「生協食堂半額キャンペーン」を実施し、2025 年度の利用率は前年から 1.5 倍に伸びました。また、同窓会は全国各地の卒業生向けに「なんでも相談、支援」も行っています。

在学中も卒業しても同窓会はみなさんの隣にいます。大学祭成功に向けて共に頑張りましょう。



日本福祉大学後援会 会長 安川 彰吉

第 73 回福祉大学祭の開催、誠におめでとうございます。実行委員会をはじめ、準備に尽力された皆さまに心より敬意を表します。

今年のテーマ「Timeless Echoーあの日の声が今も私たちを導くー」には、困難な時代を共に乗り越えてきた仲間の声や想いが、今も私たちの背中を押してくれているという、温かなメッセージが込められています。学生の皆さんがその声に耳を傾け、新たな一歩を踏み出すきっかけとなる大学祭になることを願ってやみません。

日本福祉大学後援会は、学生の皆さんの学びと成長を支えるため、国家試験対策や課外活動、大学祭など多方面で支援を行っております。今後も皆さんの挑戦を力強く応援してまいります。

この大学祭が、地域と大学をつなぐ「響き」となり、未来へと続く絆を育む場となることを、心より祈念いたします。



愛知県知多郡美浜町長 八谷 充則

第 73 回日本福祉大学祭の開催おめでとうございます。

1983 年に日本福祉大学が本町に全面移転されてから 42 年の歳月が流れ、多くの若者がこの美浜で青春の時間を過ごし思い出を刻み、そして旅立っていきました。

時代は「昭和」から「平成」そして「令和」へと移り変わりましたが、それぞれが大学生活を通して身に着けるスキルと人間力で社会に貢献していきたい、社会に必要とされる人間になりたい、そんな思いの積み重ねが日本福祉大学の伝統ある歴史となっています。この学園祭もまた、自分たちの輝く場所として、自分たちの思いを届ける場所として、本町に移転する前から先輩方が 72 回にわたり紡いできたものです。学園祭のテーマである「Timeless Echo—あの日の声が今も私たちを導く—」には、実行委員の皆さんが先輩方の時代を超えた思い、声を受け止め、さらに素晴らしい学園祭を開催しようという思いが込められているのだと思います。

皆さんを導くあの日の声と今を生きる皆さんの発想による新たな創造が融合された素晴らしい大学祭となることを祈念し、お祝いの挨拶とさせていただきます。

美浜家主組合 組合長 都筑 長武
内海家主組合 組合長 吉川三枝子
武豊家主組合 組合長 山下平八郎

第 73 回「福祉大学祭」の開催おめでとうございます。家主組合を代表しまして、心よりお祝いのご挨拶を申し上げます。

大学祭は、学生の皆様が力を合わせて創り上げる貴重な機会であり、その熱意と創造力には毎年感銘を受けております。今年の大学祭テーマは、「Timeless Echo—あの日の声が今も私たちを導く—」ということで、これまでの経験、そしてこれからの経験は、必ずや皆さんの力となってくれることでしょう。皆さんが本気で創り上げ、心から楽しめる大学祭となることを願っております。

最後に、開催に向けて尽力された実行委員会の皆様と関係者の皆様に深く敬意を表し、多くの人たちの思い出に残る大学祭となることを祈念いたします。

日本福祉大学 学生部長 小平 英志

第 73 回福祉大学祭の開催、おめでとうございます。

令和 5 年 4 月に新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に位置づけられましたが、我々の生活はすぐにコロナ以前の様子に戻ったわけではありません。特に課外活動に関しては、途切れてしまった活動を手探りで再出発させる必要がありました。皆さんは試行錯誤を重ねながら、大変な努力をされたことと思います。しかしここ数年は、学生会や大学祭実行委員会、イベントオフィス、サークル協議会の再組織化も進み、学生の皆さんの自主的な活動が格段に活性化してきたのを感じています。あらためて学生の皆さんのパワーに驚いているところです。

我々は多くの人たちの声やかかわりの影響を受けながら生きています。また福祉とは、そういったかかわりの中で生きていくために、よりよいつながり方を探求することでもあります。本年度のテーマである「Timeless Echo—あの日の声が今も私たちを導く—」は、つながりを大切にする本学にとって、実にふさわしいテーマだと感じています。今年も大いに盛り上がり、大学祭に関わるすべての人たちにとってかけがえのない経験になるといいですね。福祉大学祭が大成功を収められるよう願っています。